

JTBグループ労働組合連合会 第16回震災復興支援活動レポート

JTB首都圏地域労働組合コーポレートセールス支部

金井 かおる

日時：2014年10月25日（土）～10月26日（日）

場所：福島県南相馬市小高町

参加人数：8名

■ 活動参加にあたって

私が初めて震災復興支援活動に参加したのは、東日本大震災の2か月後の5月だった。夜行バスで向かった先は、宮城県東松島市のボランティアセンター。活動内容は、兼業農家のビニールハウスや農作地内のヘドロ及び瓦礫の除去作業だった。震災後間もなくだったので、仮設住宅は未完成、学校の体育館で避難生活をしている人達を目のあたりにして胸が痛んだ。港に向って2キロ程は建物は一切無くなり、重機が入って更地にする作業をしていた。まるで別世界の光景に息を呑んだ。お線香をあげて手を合わせた。

あれから3年と6ヶ月。陸前高田市を2回、南相馬市を1回訪れた。

陸前高田市の津波の被害は甚大で、すっかり何も無くなってしまったが、瓦礫の撤去作業中、岡の上の小学校から子供達の笑い声を耳にした時、少しずつではあるが復興の兆しを感じた。

しかしながら、昨年の2013年5月南相馬市を訪れた時、原発の警戒区域に指定された地域の復興は、まだまだ先だという印象を強く受けた。時期はちょうど田植えが終了した頃、仙台平野の早苗の緑がみずみずしく、美しい田園風景がずっと続くはずであった。にも関わらず、バスが国道6号線を南下して行くに従い、震災前は水田であったであろう場所が雑草伸び放題の荒地と化していた。昼間は作業の為に立入が許可されていても、夜間は立入禁止となっている区域に入ると、車の通行はほとんど無く、あっても復興作業関連の車両であった。商店も住宅も建物は震災前となんら変わりはないのに、人だけが居ないのだ。本当のゴーストタウンであった。二度と家主が帰って来ない家の家具の運び出し、バールを使っての解体作業は、住人の方々の無念を思うと遣る瀬無く大変辛かった。バールで箆箆や襖を叩き壊した時の手に伝わる振動が帰宅後一週間位たっても離れず、気分的にも少々落ち込んでしまった。

その後一年と半年たって、あの場所はどうなっただろうか、復興は進んでいるのだろうかと思っていた矢先、第16回復興支援活動の案内をいただいた。行ってみよう、この目で確かめてみようと思った。

■ 活動内容

今回の参加人数は8名、当初に比べ随分と少なくなった。

一日目、朝6時に仙台の宿泊ホテルを出発、お天気は快晴、2時間程かけて南相馬市ボランティアセンターを目指す。水田の稲刈りは既に終了していた。所々稲のはせ掛けの風景も見られる。福島県に入った。稲刈りのあとが見られる。面積は少ないがお米を作れるようになったのだ。そして一面ひまわり畑が広がる場所があった。ひまわりの黄色がお日様と重なりとても鮮やかだった。国道は昨年より交通量が増えた。しかもすれ違う車は自家用車だ。無人だった商店やレストランが開業していた。ほんの一部ではあるが、人々の生活が戻って来ている。

南相馬市ボランティアセンターでは、8時30分から朝礼、その後グループ毎に当日の作業活動の役割分担が発表される。今朝も松本センター長よりお話を承った。「この土地に戻って生活して行こうとする人々の為に、住む環境を整える活動」それが今の復興支援活動になっている。

本日の私共JTB班の任務は、別の土地で避難を続けているお宅の、竹藪の伐採作業だった。竹藪には放射線が溜まり易いので、伐採除去し放射線量を下げるのだ。草刈り機で根元から竹を切り倒し、鎌で小枝を落として、長さを揃えて分割する。竹は中が空洞なのにどうしてこんなに重いのだろう。体力の無さを実感した。お天気は晴天、竹藪だから日差しは遮られるが蒸し暑い。蚊に刺された。ここは福島、デング熱の心配は無いだろう。広い竹藪、残念ながら、すべての竹を伐採する事は出来なかった。

二日目、同じく朝6時集合、出発、今日も快晴。仙台は日本列島でも日の出が早い。車窓からの仙台平野の朝焼けが素晴らしい。今朝は地表と空中との温度差が顕著だったのか田んぼから霧が巻いて誠に幻想的な景色を見る事が出来た。きっと今日も良い一日になるだろう。

本日の任務、昨日とは違うお宅に伺い、伐採後の竹の後処理、庭木の伐採、また別の場所の除草作業だった。JTB班と他の班との共同作業になった。彼等はこの活動に何度も参加していて慣れていくようだった。一番厄介だったのは、庭木の太い木を切り倒す作業だった。幹回り2m程の太い木にチェーンソーがあてがわれロープを回して10人掛かりで引っ張った。綱引き大会のようではなかなかしんどかった。何十年も家族を見守って来た古木を切り倒すなど、私には思ってもみなかった事。樹には心が宿っている。切り倒してしまった、ごめんなさい。それでも、家主さんがおっしゃった。「竹藪も庭木も無くなって景色が良くなった。今まで見えなかった物が見えて来た。これから頑張ってみよう。」

機材を運搬するにあたって軽トラを運転しなければならなくなった。ボランティアセンターの車ではなく個人の軽トラで、マニュアル車である。十数年前までマニュアル車を運転していた時もあったが、私自身今現在ペーパードライバーである。しかも免許証不携帯。復興支援ボランティアに来ていて四輪駆動車が運転できないようでは役立たず

だ。そのために教習所に通って免許証を取得する人もいと、松本センター長に言われてしまった。無理をしてはいけませんが、何とも情けなく、反省してしまった。

帰りの新幹線の時間もあり、昨日より早めの終了となった。出来る所までの除草になった。依頼主の方の期待に沿う事ができたであろうか。

■ 今回の活動を通じて

南相馬市ボランティアセンターのテント正面に掲げられている言葉

「できる人が、できる時に、できる事をする」

震災後まもなく4年が経とうとしている。しかし、ここ南相馬市では、住民の方々の環境整備のニーズに対してボランティアの人数が少なく、追い付かないという。まだまだやる事が山積している。今回労働組合連合会では参加人数8名という少人数であった。今後の活動が危惧されるが、復興支援はこれからも続けていかなければならないと、現場に携わって改めて感じた。一人一人の力は微力でも、グループを組んで作業をすれば、また現地で全く知らない人達とでも班を形成して物事にあたれば、何かしら出来るものである。

今回の復興支援活動終了後、小高の小学生から頂いたサプライズ、「四つ葉のクローバー」のパウチっ子。大変嬉しかった。葉にしてこれからずっと大切にに使わせていただこう。

そして、また、ここに戻ってこよう。



